

JENESYS2024 ASEAN 同窓生のオンライン訪日プログラムの記録 (テーマ：農業・食料システム)

1. プログラム概要

【目的・概要】JENESYS で訪日経験のある ASEAN 諸国と東ティモールの同窓生を対象に、「農業・食料システム」をテーマとし、日本への更なる理解促進、ネットワーク強化、同窓生活動の活性化を目的に、2025 年 3 月 5 日から 3 月 14 日（その内 8 日間）の日程で実施しました。

【参加者】ASEAN 諸国^(注) 及び東ティモールの同窓生（2015 年度～2023 年度の参加者）合計 30 名
（内訳）インドネシア 8 名、カンボジア 3 名、タイ 1 名、フィリピン 9 名、ベトナム 1 名、マレーシア 2 名、東ティモール 6 名

（注）ASEAN 諸国：インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス

【日程】

- | | |
|---------------|--|
| 3 月 5 日（水曜日） | 【オリエンテーション】
【テーマ関連講義】
「みどりの食料システム戦略と日 ASEAN みどり協力プラン」
講師：農林水産省大臣官房 みどりの食料システム戦略グループ
地球環境対策室 国際交渉係長 渥美 和音 氏
【参加者交流】 |
| 3 月 6 日（木曜日） | 【テーマ関連講義・意見交換】「北海道の農業について」
講師：篠津土地改良区監事 岸本 佳代 氏 |
| 3 月 7 日（金曜日） | 【学校交流】 酪農学園大学 英語サークル スカレラ |
| 3 月 10 日（月曜日） | 【文化体験】 日本舞踊・三味線演奏
講師：向島芸者 千景 氏 |
| 3 月 11 日（火曜日） | 【参加者間交流】 ディスカッションテーマ：農業・食料システム |
| 3 月 12 日（水曜日） | 【同窓生活動紹介】 日本在住 JENESYS 同窓生によるパネルディスカッション
ディスカッショントピック： <ol style="list-style-type: none"> ① パネリストによる自己紹介 ② どのようにして日本へ留学もしくは働き始めたか ③ 日本に来る準備で、やっておいてよかったと思うことはあるか ④ 日本に住む前と後で、日本に対する印象は変わったか ⑤ JENESYS 参加者全員へのメッセージ パネリスト： <ul style="list-style-type: none"> ● JENESYS 2018 同窓生
ミヤツケイカインゾー 氏（ミャンマー 大学院生） ● JENESYS 2022 同窓生 |

タンヤジャラットポーン・ラッチャグリット 氏（タイ 大学院生）

● JENESYS 2019 同窓生

ハラズ・イルファン 氏（マレーシア 大学院生）

● JENESYS 2016 同窓生

アヨディア・パラマ・プトリー 氏（インドネシア 社会人）

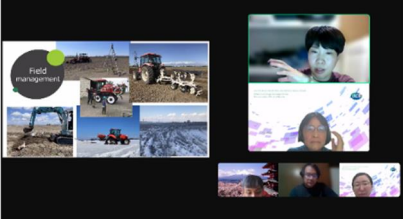
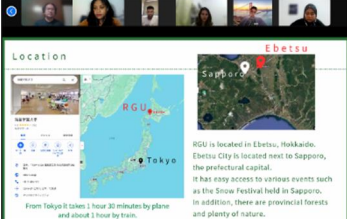
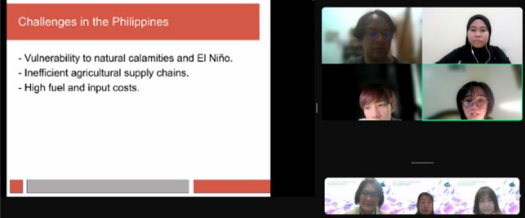
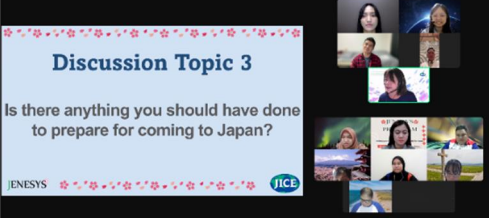
3 月 13 日（木曜日） 【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、SNS 発信状況等確認、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

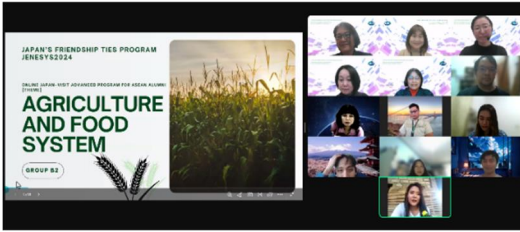
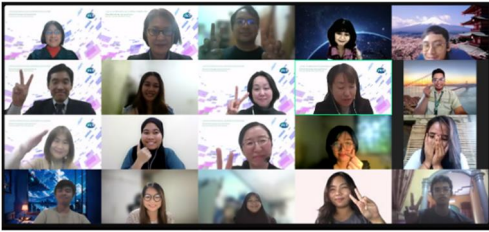
3 月 14 日（金曜日） 【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

このプログラムは、JENESYS2024 ASEAN 同窓生のオンライン訪日プログラム（テーマ：日本文化・日本語教育）と一部合同で実施しました。

2. 記録写真

オンライン訪日プログラム

	
2025 年 3 月 5 日【テーマ関連講義】「みどりの食料システム戦略と日 ASEAN みどり協力プラン」	2025 年 3 月 6 日【テーマ関連講義・意見交換】「北海道の農業について」
	
2025 年 3 月 7 日【学校交流】酪農学園大学の紹介	2025 年 3 月 10 日【文化体験】日本舞踊・三味線演奏 「さくらさくら」手踊り体験
	
2025 年 3 月 11 日【参加者間交流】 ディスカッションテーマ：農業・食料システム	2025 年 3 月 12 日【同窓生活動紹介】パネルディスカッション

	
2025 年 3 月 14 日【報告会】グループ発表	2025 年 3 月 14 日【報告会】記念撮影

3. 参加者から寄せられた質問・関心事項（抜粋）

- ◆ 【テーマ関連講義】「みどりの食料システム戦略と日 ASEAN みどり協力プラン」について
 - ・ 水田からのメタンガスの発生をどのように抑制しているのですか。
 - ・ 農家と環境の両者への利益は守りつつ、持続可能性を高め、生産力を高めていくにはどのようにしたら良いと思いますか。
 - ・ 目標を高く設定している部分もありますが、農家の反応や、実際に目標を達成できていますか。
- ◆ 【テーマ関連講義・意見交換】「北海道の農業について」
 - ・ 農家の高齢化が進んでいるが、高齢の農家はどのように対応していますか。
 - ・ 連作障害をどのように防いでいますか。有機肥料などを使用していますか。土地の購入に関し、補助金はありますか。
 - ・ スマート農業により、食の質と安全性は高まりましたか。また、農家にはどのような変化がみられましたか。

4. 参加者の感想（抜粋）

- ◆ マレーシア 大学生

どの講義も本当にすばらしく、目を見張るようなものばかりで、このプログラムを終えても心に残る貴重な知見を与えてくれました。参加者と講師の両方が、示唆に富んだ質問と見識ある回答で積極的に参加する姿は刺激になりました。どのディスカッションもプログラムのテーマと深く結びついており、プログラム上の経験をさらに豊かなものにしてくれました。
- ◆ フィリピン 社会人

貴重な知識と経験を得ることができ、深く感謝しています。農業と食料システムに対する私の理解は大きく深まりました。持続可能な農業の実践に、真摯に取り組みたいです。

日本の専門家や学生との交流はとても有意義で、美しい芸者さんのパフォーマンスをはじめとする文化交流は本当に忘れがたいものでした。このプログラムは、日本の豊かな文化遺産に対する私の理解を広げてくれました。
- ◆ インドネシア 勤労学生

渥美講師の「みどりの食料システム戦略」に関する講義は、農業の生産性と環境の持続可能性を両立させるという日本の革新的なアプローチを示していました。J-クレジット制度や環境ラベルの取り組みは、持続可能な農業の実践にインセンティブを与える実践的な方法を示していました。

岸本講師の北海道の大規模農業経営と日本の農業が直面する課題についての洞察は目を見張るものがありました。女性農家として、農家の女性のためのネットワークを築かれたご経験は感銘を受け

ました。

千景講師、芸者の伝統芸能についてのすばらしいプレゼンテーションに本当に魅了されました。また、「さくらさくら」の歌い方を教えてくださったインタラクティブな音楽レッスンは、私たちが個人的にも日本文化に触れるきっかけとなり、忘れられない体験となりました。芸者の伝統の豊かな文化遺産と、これらの伝統芸能を習得するために必要な長年の熱心な訓練について学ぶことができ、深く感謝しています。

同窓生の皆さん、日本での教育的、職業的な経験を共有いただきありがとうございます。DX（デジタルトランスフォーメーション）の分野からエネルギー企業での仕事まで、皆さんの多様な経験は、同じような将来を考えている私たちに貴重な視点を与えてくれます。このプログラムを通じて得た知識とネットワークは、持続可能な農業と食料システムにおける日・ASEAN 協力の強化に間違いなく貢献するでしょう。私は、これらの見識を私自身の置かれた状況において活用し、両国の友好関係を継続させていきたいと思います。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 講師

政策や国際協力に関する内容であったにもかかわらず、多くのコメント・質問をいただき参加者との意見交換ができたことが有意義でした。今後も持続可能な農業・食料システムの構築に向けた取組や気候変動対策など、環境分野の取組を積極的に発信できればと思います。

◆ 講師

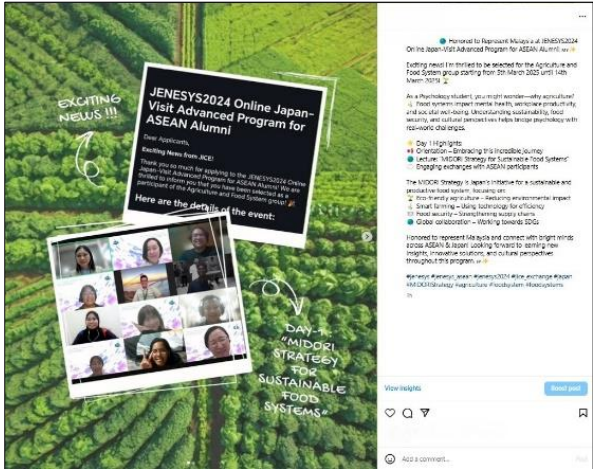
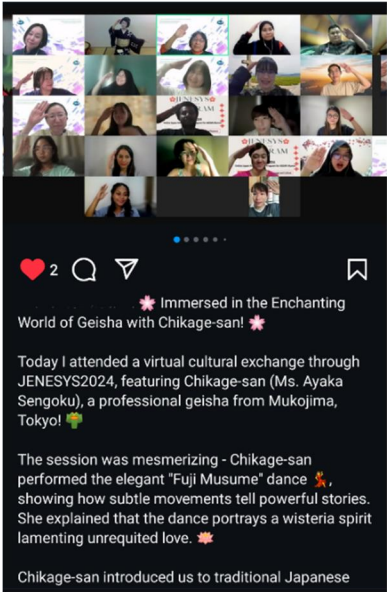
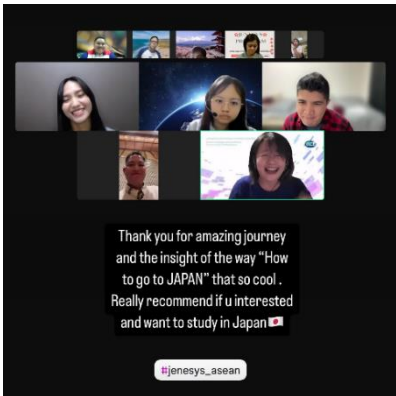
ASEAN の若い世代が北海道の農業と食に魅力を感じてくれていることが分かり、嬉しく思いました。

◆ 講師

海外の方が漫画などを通して日本文化に興味を持ってくださっているのは知ってはいましたが、講義もとても熱心に聞いてくださり、そして踊ったり唄ったりということも、画面を通して一緒に出来るということを今回の経験で見つけました。

日本文化に対してとてもリスペクトをしてくださっていることを感じました。

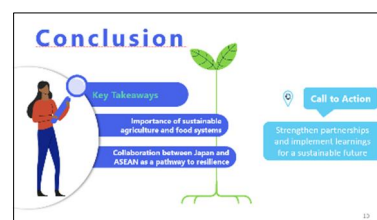
6. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	2025 年 3 月 5 日 (Facebook) マレーシア 大学生 JENESYS2024 ASEAN 同窓生のためのオンライン訪日プログラムにマレーシア代表として参加することになりました。 2025 年 3 月 5 日から 2025 年 3 月 14 日までの農業・食料システムグループに選ばれ、ワクワクしています。 心理学の学生として、なぜ農業なのか？と、みなさんは不思議に思うかもしれません。食料システムは、精神的な健康、職場の生産性、社会の幸福に影響を与えます。持続可能性、食料安全保障、文化的観点を理解することは、心理学と現実世界の課題との橋渡しに役立ちます。 (後略)
	2025 年 3 月 11 日 (Instagram) インドネシア 勤労学生 「千景さんと一緒に魅惑の芸者の世界に浸りました」 今日は、JENESYS2024 を通じて、東京向島のプロの芸者である千景さんとのバーチャル文化交流に参加しました。セッションは魅力的で、千景さんは優雅な「藤娘」の舞を披露し、繊細な動きがどのようにパワフルな物語を伝えるか見せてくれました。彼女は、この舞が片思いに嘆く藤の精霊を描いていると説明しました。 (後略)
	2025 年 3 月 12 日 (Instagram) タイ 大学生 来日に至る経緯について、興味深いお話と見識をありがとうございました。素晴らしいプログラムでした。日本留学に興味がある方にお勧めします。

7. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

オンライン訪問地：東京都、北海道 全3グループ発表

グループ1



【オンライン訪日中の成果】

◆ 農業・食料システムに関する学び

- ① 農業と食料システムに対する日本の革新的なアプローチについて学びました。
日本と ASEAN 諸国が共通の課題に直面する中、地域間の協力は農業システムの強靱性を構築する上で鍵となります。
- ② 日本の「みどりの食料システム戦略」における高い目標は、農業部門をより持続可能なものへと変革する日本の決意を示しています。
- ③ J-クレジット制度は、気候変動に配慮した農法を採用する農家に経済的誘因を提供するものです。
- ④ 日本の高度な農業技術は、北海道の大規模農業に活用されています。
- ⑤ 伝統と革新を両立させる日本の優れた能力について学びました。

◆ 日本に関する学び

日本がさまざまな分野で伝統と進歩をどのように融合させているかについての視点を学びました。たゆまぬ改善への追求は、継続的な研鑽、緻密さ、持続可能性に対する日本の取り組みを反映したものであり、世界の強靱な農業システムを育むための貴重な教訓にもなります。

【アクション・プラン】

プログラムで学んだことを生かし、同窓生活動として以下に取り組みます。

- ① SNS での広報活動、地域イベント、講演会などを通じて知識を共有し、地域社会に見識を広めます。
- ② 同窓生や専門家が、ベストプラクティス、研究成果、地域の実情に合わせた解決策を地域間で共有できる日本 ASEAN 農業知識交換ネットワークを構築します。
- ③ 日本の技術を紹介するワークショップを開催します。
- ④ 消費者の意識を高め、持続可能な農業を奨励するために、日本の環境負荷可視化システムを導入するパイロットプロジェクトを考案します。
- ⑤ 若手農業者と農業専門家をつなぐメンターシップ・プログラムを実施します。
- ⑥ 地元での食料生産、持続可能性教育、より強固な社会的つながりを促進するための都市農業イニシアティブの促進を行います。

グループ 2



【オンライン訪日中の成果】

◆ 農業・食料システムに関する学び

- ① 日本は、日 ASEAN みどり協力プランを通じて ASEAN と協力し、各国のニーズに基づいた個別の解決策を重視し、地域に根ざした解決策を奨励しています。さらに、日本の共同クレジット制度は持続可能なプロジェクトを実施し、グローバルみどり協力プランは日本の持続可能性への取り組みを世界に広げています。
- ② テクノロジー、データ、自動化を統合して農業プロセスを最適化し、効率性、生産性、持続可能性を向上させるスマート農業について学びました。
- ③ 女性農業者は限られていますが、日本ではスマート農業と政府の支援により状況は改善されつつあり、より多くの女性が農業に参加し、指導的役割を担うようになっています。

◆ 日本に関する学び

日本人との交流や文化体験を通じて、日本の文化、教育、伝統に対する貴重な洞察が得られました。日本の価値観、伝統、社会構造に対する理解が深まるとともに、異文化に対する認識と評価が高まり、伝統と現代的な影響をバランスよく取り入れるという日本の姿勢への理解が深まりました。

【アクション・プラン】

プログラムで学んだことを生かして、同窓生活動として以下の活動に取り組みます。

- ① 研究とイノベーションのパートナーシップ
- ② 公開講座やウェビナーを通じた知識の伝達
- ③ SNS キャンペーン
- ④ 教育コンテンツの作成と共有
- ⑤ 地域社会への働きかけとボランティア活動

グループ 3



【オンライン訪日中の成果】

◆ 農業・食料システムに関する学び

講義や参加者間交流を通じて、①農業・食料システムに関するお互いの国の違いや弱点・長所、②ASEAN 諸国の食、教育における共通点と相違点、③北海道の農業の今について学びました。

◆ 日本に関する学び

日本人との交流や文化体験を通じて、①芸者になるまでの道のりは過酷な挑戦であること、②日本の伝統芸能は細部と観客の文化体験に重点を置いていること、③日本で学び働くためには言語、文化、問題解決能力が必要です。日本人は質問に対し、とても詳しく、慎重に、そして熱心に答えてくれることを知りました。

【アクション・プラン】

私たち独自の JENESYS オンラインプログラムを企画し、日本と ASEAN 間での親善大使を目指す人たちに農業と食のシステムを紹介します。以下の 4 点を主な目的としています。

- ① 東南アジア各国の農業と食料システムにおけるさまざまな問題を認識してもらいます。
- ② ASEAN 諸国、東ティモール、日本のさまざまな農業システムを紹介します。
- ③ 参加者自身の農業に関する経験や知識についての文化交流を通じて、参加者同士のつながりを深めます。
- ④ 今後の JENESYS の招へいプログラムやオンラインプログラムへの参加意欲を高めます。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）